

の忘れ易きを持みて、苟くも不合理、不親切なる言動を示して置く時は、日を経て其の忘れて欲しいと思ひたるものが却つて能く記憶されて居るもので有つて保母自身に反省して自ら恥づることのあるものである人様の大切なお子様を安心して幼稚園にお預けになつて居るものなれば、保母の責任は其親と同じく重大のものである第二國民の身體と精神の基礎を左右する教養を任せられて居るものなれば、幼児

の將來を深く考慮して特にお噺の選擇に考究せねばならぬと思ひます。
要するに私は、幼稚園保母が研究を重ねて幼児に適切なる事實談及寓言童話を選び身振手振をして幼兒の快感を誘ひ喜悅裏に忠孝其の他勸善の修養を逸せぬ様不知不識裏に感化薰陶をなさん事を望む。
換言すれば童話をお伽式に噺して修身的目的を逸せぬこと最も肝要と思ひます。(終)

○虐げられし小國民

戦後獨逸が食料と物資に缺乏して國民の生活が脅かされて居る事は屢々傳へられた所だが殊に此食料と物資の缺乏は獨逸の小兒を苦しめ爲に識者は獨逸民族將來の爲寄々協議して居るされど今尙名案が出ない内に冬に入らうとし寒さと餓とは遠慮なく先づ小兒を苦しめるので兎も角獨逸小兒救濟會と云ふものを組織し其發會式を兼ねて獨逸全國に亘り十一月二十八日小兒救濟の爲に示威運動を行つた同日伯林大學教育學教授のラングスタイン博士は小兒救濟が殆ど絶望であると悲觀し

曾つてエレン・ケイ女史は二十世紀は小兒の時代なりと言つたが獨逸の小兒に取つては二十世紀は小兒虐殺時代だ。と聲淚共に下る演説を試みた普魯西議會は目下開會中だが矢張小兒救濟が問題となつて居り二十七日普魯西文相ステゲバルト氏は小兒の爲稍々激昂せる句調を交へて左の演説をした。

大伯林市の某區立小學校は六百五十人の生徒を教へて居るが其内百六十一人は跳足で百四十七人は上著なことで通學し又三百五人は褌衣なしで通學して居る而して是等兒童中家庭で牛乳を飲むことが出来ない小兒が三百四十一人ある斯くの如き有様であるから六百五十人の内六十人は過去三箇月間の營養不良と寒さの爲に病氣となつて死んだ。

と又伯林市立慈善病院長ピコツトナー博士は同じく小兒の窮境を述べて次のやうに言つた。
伯林市内に癡林のシーツが缺乏して居る爲と住宅缺乏の爲に小兒は年々弱くなり本病院に入院するものは大抵肺結核である。とされど食料と物資の缺乏せる目下の獨逸としては坐して其死を見て居るより外に仕方がない有様である。(東京日々新聞伯林特電)